

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

AIB（国際ビブリオフィル協会）会員附属図書館を訪問

AIB（国際ビブリオフィル協会）会員58名が去る10月7日付属図書館を訪れ、本学のコレクションを見学した。これはAIBの第21回大会が日本で開催されたのにもない、ポストツアーとして計画されたもので、来館した58名のうち49名が海外からの会員であった。

図書館では、狩野文庫や漱石文庫から20点余りの貴重資料を展示するとともに、ブント文庫、ゼッケル文庫、櫛田文庫等の特殊文庫について

も紹介した。中でも奈良絵本や浮世絵、漱石文庫の蔵書に残された書き入れは特に興味を引いたようで熱心に見入っておられた。本についての話題はつきることがない様子で予定時間を大幅に遅れ、次の予定地に発っていかれた。

*AIBは、フランス国立図書館種書部門に本部を置く愛書家の団体で、1963年に発足し、現在23か国約500名の会員を有している。今回の日本大会の実行委員長は渡部昇一氏。

（情報サービス課）



記念資料室企画展

解剖・仙台医学専門学校 ― 公文書に見る明治の医学校 ―

記念資料室では、去る11月2日（火）から19日（金）にかけ、企画展「解剖・仙台医学専門学校 ― 公文書に見る明治の医学校」を開催しました。期間中約350名の方々にご来館いただきました。

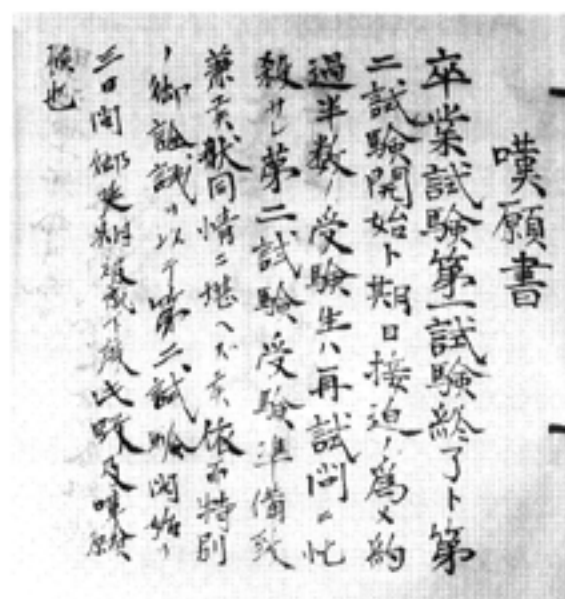
仙台医学専門学校は、東北大学医学部成立の重要な前史をなす学校であり、また、若き日の文豪魯迅が留学生生活を送った学校として知られています。記念資料室では昨年、当室に移管されている同校の公文書類を、東北大学教育研究協力基金による事業として一括してマイクロフィルム化したしました。今回は、この公文書類と写真類を中心に、附属図書館医学分館および医学部長陵同窓会所蔵の関連資料を併せて展示し、在りし日の仙台医学専門学校の「解剖」を試みようというものです。

同校はもともと、1887年（明治20年）に、第二高等中学校（のち第二高等学校）の医学部として出発し、1901年（明治34年）に独立して「仙台医学専門学校」となった学校です。しかし、その後1912年（明治45年）に「東北帝国大学医学専門部」と改称され、1915年（大正4年）東北帝大に医科大学が設置されると、同校の生徒募集は停止され、すべての学生が卒業した1918年（大正7年）をもって廃止されました。校舎の場所は、現在の片平キャンパス事務局棟の西側、旧理学部化学教室から施設部付近にあたります。現在もその一部である階段教室などが残されており、希望者にはこの教室もあわせて公開いたしました。

会場では、当時の文書・写真類約80点を①医専のかたち、②医専に入るまで、③医学生のです

がた、④学業、⑤医専のスタッフ、⑥医専の行事、⑦医専を出るには、⑧医専とは何だったのか、以上の8コーナーに分け展示しました。入学試験問題（明治28年）、規則違反の服装をする学生への警告掲示文、学生の受講講義録、卒業試験開始日延期の嘆願書など、明治期の学校経営や学生像、教員・学生の生活文化を知ることができるナマの資料が並べられ、見学者の方にはおおむねご好評をいただけたようです。

なお展示資料については、記念資料室ホームページ（<http://www.library.tohoku.ac.jp/archives/>）においてご覧いただけるようになっていますので、どうぞご覧下さい。



卒業試験開始延期を求める嘆願書

（記念資料室）

第54回東北地区大学図書館協議会総会

第54回東北地区大学図書館協議会総会は、平成11年9月16日～17日の両日、盛岡大学・盛岡大学短期大学部図書館を当番館として「イーハトーヴこずかた」（盛岡市）を会場に、加盟館から45館（新規加盟館を含む。）73名の参加を得て開催された。

当番館盛岡大学職員の司会により開会され、門屋光昭盛岡大学・盛岡大学短期大学部図書館長の開会挨拶、太田 稔同大学学長の歓迎挨拶、常任幹事館の東北大学から小田忠雄附属図書館長の挨拶があり、議事に入った。

本総会では、永年勤続表彰について、元岩手大学附属図書館阿部憲勝氏、元秋田大学附属図書館戸嶋 勇氏、元東北大学附属図書館菅野博之氏、元東北大学附属図書館医学分館村岡 徹氏の4名に対し、永年にわたる図書館活動並びに本協議会への貢献をたたえ、常任幹事館長より所属図書館長を介して退職時に表彰状と記念品の伝達が行われた旨の報告があった。

総会における主な協議事項並びに各部会での協議事項は以下のとおりである。

（1）新規加盟について

青森県立保健大学附属図書館及び秋田県立大学図書・情報センターから新規加盟につ

いての要望が出され、満場一致で加盟が承認された。

（2）災害時の協力体制について

（3）役員館の改選について

役員館の任期満了により、新たに次の大学が選出された。

幹 事 館：東北大学（常任）、山形大学、福島県立医科大学、東北文化学園大学、秋田経済法科大学

監 査 館：山形県立米沢女子短期大学、宮城学院女子大学

論文審査館：東北大学、山形大学、秋田県立大学、秋田公立美術工芸短期大学、仙台大学、盛岡大学

（4）第55回総会の当番地区（館）について

（5）平成11年度の合同研修会について

（5）その他

- ・東北地区大学図書館協議会誌50号の発行について

総会の後、各部会に別れて部会が開催された。次回総会は、宮城教育大学が当番館として開催することとなった。

（総務課）

第40回東北地区医学図書館協議会総会

標記協議会は、平成11年10月29日（金）、当番館秋田大学附属図書館医学部分館（秋田ビューホテル）を会場として、加盟館7大学から館長及び主任司書12名が参加して開催された。

議事に先立ち、当番館の飯島分館長から挨拶があり、会則により当番館の飯島分館長が議長に選出され、出席者の自己紹介の後、議事に入った。報告事項、承合事項及び協議事項は以下の通りである。

報告事項:①日本医学図書館協会理事会報告、②日本医学図書館協会評議員会報告、③文献複写利用報告（BLDSC:The British Library Document Supply Center）④各館の近況報告。

承合事項:①国内雑誌購読について。

協議事項:①第71回（平成12年5月開催）日本医学図書館協会総会の運営について、②第71

回日本医学図書館協会総会における東北地区からの提出議題について、③図書館利用ガイドンスについて、④日本医学図書館協会理事・監事候補者の推薦について、⑤次期評議（員）館の推薦について、⑥次期当番館について。

特に、第71回（平成12年5月開催）の日本医学図書館協会総会が秋田大学附属図書館医学部分館を東北地区当番館として開かれるため、当番館から総会のための準備にむけて組織委員会が組織された旨の報告があり、次いで総会関係事項について種々協議が行われた。

また、次期評議（員）館に岩手医科大学附属図書館を選出、次期当番館には弘前大学附属図書館医学部分館を決定し、会議を終了した。

（医学分館）

第31回国連寄託図書館会議について

情報サービス課参考調査掛 今 出 朱 美

平成11年11月11日（木）～12日（金）にわたり、広島市立中央図書館において第31回国連寄託図書館会議が開催された。毎年行われているこの会議には全国の寄託図書館の担当者が集まり、活動報告や勉強会をするほか、担当者の顔合わせ的な役割もあると思われる。今年は初めて当掛より出席することになり、2日間、他の15館の参加者と共に学ぶ機会をいただいた。

第1日目は自己紹介を兼ねて各館の活動報告、レファレンス事例報告、広島市立大学助教授の吉田氏の「国連とNGO」という題で講演があった。レファレンス事例報告は、あらかじめ各館が提出したレファレンス事例をその場で発表し、それに対して他の参加者が質問、アドバイスをするという勉強会である。今年度より国連資料に携わった私にとっては、初めて聞く

ことばかりで、長年勉強している他館の参加者の発表をその場で理解し、納得するのに必死だった。当館をはじめ、人事異動により毎年のように担当者を変更してしまう機関と、長年同じ人が担当している私立大学などの機関とのレファレンス内容にはかなり格差があり、自己研鑽の必要性があるのはもちろん、掛として、情報の蓄積の必要性を感じた。

第2日目は研究報告と研修があり、研究報告は参加した中の3館から報告があり、研修として広島平和研究所の荒木氏による「広島平和研究所の活動」という題で講演があった。研究報告のうち、京都国連図書館の報告は利用者ガイドンスについてで、各回5人位という少人数の利用者を集め、国連資料の利用指導をしているという興味深い内容であった。当館も資料の配

置場所から利用者の正確な数はつかめていないが、ゼミなどの単位で国連資料に関するレファレンスを受けることがあり、資料の特殊性から、これからはPRも兼ねて利用指導をしていかなければと思った。

今回の会議はアナン事務総長の来日にちょうど重なり、国連広報センター、国連資料室の方が欠席されたため、アドバイスが少ない分、い

つもと違う雰囲気の会議だったらしいが、他館の方々の熱心な姿を目の当たりにし、寄託図書館に選ばれた当館の任務の重大さに気づかされた。また私にとっては、少人数の会議のおかげで知り合いができたことは、大きな収穫だったといえる。今後、何か疑問点があったらこういった方々にもお聞きし、勉強していきたい。

(いまで・あけみ)

故・野^{のぞえてつお}副鐵男名誉教授旧蔵資料の寄贈



世界ではじめてトロポロン化合物（七つの炭素原子が環をつくって並ぶ物質の化合物）を発見し、「トロポノイド化学」という新分野の開拓者として輝かしい業績を残した世界的有機化学者・故野副鐵男名誉教授（1902－1996）の関係資料が、このほど、ご遺族である野副重男名誉教授及び野副鐵男先生追悼事業会を通じて記念資料室に寄贈されました。

野副教授は仙台のご出身で、旧制第二高等学校を経て大正12年（1923年）に東北帝国大学理化学部に入学、日本における本格的有機化学の創始者・真島利行教授の指導をここで受けます。卒業後は台湾にわたり、昭和4年（1929年）台北帝国大学（現台湾大学）理農学部助教授（のち教授）に就任。教授はここで、タイワンヒノキの精油中に含まれる未解明の酸性物質を抽出し、これをヒノキチオールと命名、これが、当時自然界には存在しないとされていた、七つの炭素原子が環状に並び核を構成する物質＝トロポロン系の化合物であることを明かにされました。その研究成果は、同様の研究を進めていた

欧米の研究者の手によって終戦後世界に紹介され、一躍注目を集めるようになります。

昭和23年（1948年）に東北大学に着任した後は、ヒノキチオール及びその母核トロポロンの合成をはじめ、トロポロンの関連化合物の研究を体系化し、「トロポノイド化学」という新分野の開拓に多大な貢献をなされました。同33年（1958年）には56歳の若さで文化勲章を受章し、ノーベル賞候補としてもしばしばその名前が挙げられています。同41年（1966年）東北大学を停年退官されたのちも、花王株式会社に研究室が設けられ、一貫した情熱で研究生活を続けられました。

今回、記念資料室に寄贈された資料には、文化勲章、研究論文集、講演等の録音テープ、教授が大切に保存したアズレン系化合物のサンプル、教授が交流を持ったのべ9,000人にもわたる世界の化学者のサイン帳などがあります。いずれも野副教授の人と学問について知る上で欠くべからざる貴重な資料ばかりです。

なお、記念資料室では現在、野副教授についての展示コーナーを設け、これらの資料を一般公開しております。これを機会に多くの方々に、野副教授の人と学問に触れていただければと思います。

(記念資料室)

平成11年度総合目録データベース実務研修を受講して

情報管理課図書情報掛 及 川 恵 美 子

さる10月18日から11月5日の3週間にわたり、学術情報センター主催による研修に参加する機会を得た。昭和60年度からスタートした目録担当者を対象とするこの研修も10数年を経て、内容がかなり変化しているようである。というのも、地域講習会講師養成を目的としてと事前聞いていたのであるが、センターで同じ頃行われた目録講習会とは何の関連もなかった。以前は講習会のテキスト作成や講義補助をやったりの実務型であったと聞く。

3週間のうち土、日、祝日を除けば正味14日の2週間。カリキュラムは、1コマ約2時間で、全41コマ。その内訳はレポート提出のための個人研修が16コマ、講義13、見学・式など7、討議・発表5という具合で、レポート作成のために時間を大きく割かれている。又、班別によるレポート提出だったのが、平成9年度から個人別になっている。結果、センタースタッフや参加者との討議の時間が少なかったのが残念である。最終日の前日までのレポート提出の義務遂行はなかなか厳しいと思う。もっとも受講生の職場での担当が、目録業務専任ではないことや、目録に携わっていない人もいたので、全体討議は難しいのかもしれない。

講義は前半に集中して行われ、目録システムの歴史及び現状、新CATの考え方、電子図書館・電子ジャーナル、NACSIS-CATの品質管理などがテーマで、図書館をとりまく学術情報に関する最新の動向を知ることができた。

特に以下3点を報告したい。

1. 電子ジャーナルの扱い：2001年から総合目録DBに入れる予定

2. Z39.50をベースとした、OCLCなどの外部ユーティリティとの相互参照計画
3. AACR2改訂の動き：雑誌が初号主義から最新号主義へ

(永田治樹氏の「情報サービス機関としての図書館」という講義の中で紹介された。その内容が以下のホームページでみることができる。)

<http://www.nacsis.ac.jp/hrd/HTML/Db/lecture/h11/lecture.html>

研修レポートのテーマは、目録担当者ばかりではない受講生のため、電子ジャーナルや情報リテラシーなど多岐にわたっている。平成8年度からの過去のレポートが研修課のホームページでみられるので、目を通すと面白い。

<http://www.nacsis.ac.jp/hrd/HTML/Db/index.html>

来年度からセンターも「国立情報学研究所(仮称)」という名称になり、場所も千代田区の方へ移転することになっている。センターとしての最後の研修受講生となったわけで、閉講式では長い研修を終えた安堵感と共に、一抹の寂しい思いも禁じ得なかった。研修の始まった頃は緑濃かった「教育の森公園」の木立がすでに黄葉し、午後の陽に煌めいていた。

最後に長期間にもかかわらず研修に送り出して下さった、東北大学図書館の職員の方々、お世話下さった学術情報センターの皆さまに感謝の意を表したい。

(おいかわ・えみこ)

平成11年度 東北大学附属図書館職員総合研修会

平成11年度の図書館職員総合研修会は、「コミュニケーション」をテーマとして以下のように開催された。

日 時：

平成11年10月1日（金）13：10～16：35

会 場：

東北大学附属図書館本館2号館大会議室

講 演：

1 「電子コミュニケーションの導入とステップアップ」

中本 義徳 氏（金沢経済大学助教授）

2 「人を魅きつけるコミュニケーションのヒント」

木島 隆司 氏（仙台YMCA国際ホテル専門学校副校長・教務部長）

はじめに、中本氏の講演では、企業経営の情報化のこれまでの進展から、それにともなう電子コミュニケーションの導入過程について説明がなされた。それから、電子メールを中心とした電子コミュニケーションの有効性と問題を指摘し、さらには電子コミュニケーション能力を高める方法について解説をいただいた。

集団の維持・発展を目的とする視点から語られた講演は、広く社会組織の構成員でもあるわれわれの自覚を促すのに充分であった。また、随所に具体的な事例をあげており、氏自身の体験に基づくものも多く、説得力があった。

次に木島氏からはインターフェイスコミュニケーションにおけるホスピタリティマインドについて話された。サービスを提供する立場から、その質を高めるためのコミュニケーション技術の向上のために、立ち居振る舞いや効果的な話し方など、さまざまな場合を想定した実践例が示された。

人と人との接点に重点を置いた講演で、利用者と日ごろ接する職員はもとより、日常生活においても役立つ知識を教示いただいた。また、ウィットに富んだ話には会場に終始笑いが絶えなかった。



ふたつの講演は、それぞれ異なる視座からコミュニケーションを捉えたものであったが、われわれ図書館職員にとっても重要な点について語られたものであった。図書館の業務には、様々な要素があるが、とかく自分の関心にしか目が届かなくなりがちである。こうした機会に、他業務の立場から見る姿勢を養っていただきたいと強く望む次第である。

研修会には、昨年を上回る60余名の参加をいただき、当日実施したアンケートからも、有意義な時間を過ごせた、職場のみんなにも聞かせたかった等、好評をいただくことができた。その結果からも、研修の目的としたところは果たせたと思われる。

最後に、今回の研修会開催にあたり、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

（平成11年度総合研修委員）

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。表1は平成8年～平成10年度の概況、表2は平成10年度部局別のそれである。

表 1

区 分		平成8年度	平成9年度	平成10年度
蔵 書	和	1,716,662 冊	1,739,341 冊	1,755,378 冊
	洋	1,678,133	1,708,785	1,712,979
	計	3,394,795 冊	3,448,126 冊	3,468,357 冊
所 蔵 雑 誌 数	和	24,973 種	26,596 種	27,282 種
	洋	34,361	34,659	35,006
	計	59,334 種	61,255 種	62,288 種
年 間 受 入 数	和	35,395 冊	34,357 冊	34,052 冊
	洋	36,001	34,570	33,591
	計	71,396 冊	68,927 冊	67,643 冊
年 間 雑 誌 受 入 数	和	11,637 種	11,380 種	11,534 種
	洋	9,419	9,290	9,010
	計	21,056 種	20,670 種	20,544 種
奉仕対象者数	学 生	17,985 人	17,986 人	18,180 人
	教 官	2,524	3,843	2,564
一人当り奉仕対象	蔵書数(冊)	165.5	158.0	167.2
	年間受入冊数(冊)	3.5	3.2	3.3
	図書館資料費(千円)	36.9	42.6	45.0
図 書 館 職 員 数	総 数	141	142	141
	専 任	77	76	75
	臨 時	64	66	66
図書館職員1人当り奉仕対象者数		145.5	153.7	147.1
図 書 館 資 料 費 (千円)		756,926	929,301	934,176
大 学 総 経 費 (千円)		93,382,205	84,871,440	92,098,656

表 2

部 局		職員数（ は定員の職員 の内数）	蔵 書（平成11年3月31日現在）						平 成 10 年 度 受 入 冊 数						平 成 10 年 度 経 費					施設（平成10年3月1日現在）					
			図 書（冊 数）			雑 誌（種類数）			図 書（冊 数）			雑 誌（種類数）			図 書 館 資 料 費				座席数 （席）	延面積 （㎡）	閲覧室 スペース （㎡）	書 庫 スペース （㎡）	収容可能 冊 数 （冊）		
			和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	図 書	雑 誌	その他	計						国 庫 費 除 外 （千円）	
本 館 開 係	本 館	57 (25)	682,249	351,157	1,033,406	11,075	7,348	18,423	10,689 (6,474)	4,462 (2,297)	15,151 (8,771)	2,986 (411)	904 (352)	3,890 (773)	23,275	25,328	2,855	51,458	222,177	1,141	18,215	4,156	6,847	1,751,528	
	文 学	2 (2)	243,235	137,203	380,438	1,182	1,015	2,197	6,891 (4,632)	3,360 (2,383)	10,271 (7,015)	642 (261)	544 (531)	1,186 (792)	66,518	14,834	0	81,352	4,903	1	68	2	10	4,972	
	教 育	2 (2)	53,247	37,581	90,828	718	419	1,137	915 (738)	832 (306)	1,747 (1,044)	627 (113)	230 (221)	857 (334)	10,338	7,950	0	18,288	10,157	18	268	89	90	11,945	
	法 学	3 (0)	101,167	130,723	231,890	1,019	744	1,763	2,679 (1,109)	2,209 (1,504)	4,888 (2,613)	856 (207)	593 (533)	1,449 (740)	27,421	14,439	6,529	48,389	7,121	35	835	65	580	80,778	
	経 済	5 (3)	175,263	167,180	342,443	1,631	1,206	2,837	3,584 (2,307)	3,102 (999)	6,686 (3,306)	905 (170)	578 (515)	1,483 (685)	40,695	23,413	0	64,108	14,385	18	286	46	73	27,472	
	遺 生 研	1 (0)	17,980	12,452	30,432	446	309	755	40 (12)	219 (28)	259 (40)	121 (29)	90 (62)	211 (91)	688	6,127	0	6,815	484	4	206	18	160	30,444	
	素 材 研	1 (1)	8,323	17,262	25,585	178	373	551	117 (7)	425 (45)	542 (52)	85 (42)	100 (72)	185 (114)	1,043	11,440	29	12,512	3,404	10	220	40	144	43,528	
	科 研	1 (0)	4,497	17,592	22,089	61	265	326	59 (0)	327 (31)	586 (31)	26 (9)	56 (56)	82 (65)	712	14,473	0	15,185	1,254	20	532	58	390	36,306	
	流 体 研	2 (2)	12,644	19,458	32,102	76	400	476	88 (45)	391 (49)	479 (94)	42 (32)	98 (91)	140 (123)	1,560	12,912	1,645	16,117	7,751	7	151	5	106	27,778	
	通 研	2 (0)	8,520	22,773	31,293	253	484	737	211 (42)	517 (97)	728 (139)	121 (104)	206 (199)	327 (303)	2,664	23,371	0	26,035	3,310	10	275	20	235	39,667	
	反 応 研	2 (1)	6,952	24,588	31,540	151	465	616	103 (12)	544 (51)	647 (63)	66 (30)	128 (111)	194 (141)	2,515	21,662	0	24,177	3,508	21	382	63	252	41,191	
	マイクロトン	2 (2)	864	4,218	5,082	8	96	104	0 (0)	160 (0)	160 (0)	0 (0)	26 (26)	26 (26)	0	5,546	0	5,546	2,749	4	98	12	35	5,778	
	東北アジア	1 (1)	3,502	1,231	4,733	28	10	38	1,518 (1,296)	432 (318)	1,950 (1,614)	38 (36)	38 (38)	76 (74)	11,374	1,783	0	13,157	6,936	0	113	0	103	9,333	
	計	81 (39)	1,318,443	943,418	2,261,861	16,826	13,134	29,960	26,894 (16,674)	17,200 (8,108)	44,094 (24,782)	6,515 (1,444)	3,591 (2,817)	10,106 (4,261)	188,803	183,278	11,058	383,139	288,139	1,289	21,649	4,574	9,025	2,110,723	
医 学 分 館		20 (11)	148,419	235,424	383,843	3,666	9,325	12,991	2,195 (1,041)	4,204 (392)	6,399 (1,433)	1,254 (433)	2,005 (1,767)	3,259 (2,140)	16,685	136,565	0	153,250	51,538	327	4,025	256	2,190	418,222	
北 青 葉 山 分 館		11 (5)	70,059	268,948	339,007	1,654	6,508	8,162	1,172 (772)	5,392 (695)	6,564 (1,467)	881 (161)	1,436 (785)	2,317 (946)	19,560	130,112	300	149,972	45,646	248	3,356	1,140	1,310	302,389	
工 学 分 館		17 (6)	133,006	151,566	284,572	2,719	3,752	6,471	2,606 (1,692)	4,101 (2,088)	6,707 (3,780)	1,643 (444)	1,233 (1,057)	2,876 (1,501)	41,608	115,091	1,030	157,729	51,223	364	5,355	2,460	605	286,416	
農 学 分 館		6 (2)	68,256	54,009	122,265	2,269	1,567	3,836	926 (595)	1,346 (142)	2,272 (737)	1,141 (137)	545 (300)	1,686 (437)	5,746	34,936	692	41,374	12,828	72	1,279	326	418	116,944	
計		54 (24)	419,740	709,947	1,129,687	10,308	21,152	31,460	6,899 (4,100)	15,043 (3,317)	21,942 (7,417)	4,919 (1,175)	5,219 (3,849)	10,138 (5,024)	83,599	416,704	2,022	502,325	161,235	1,011	14,015	4,182	4,523	1,123,971	
金 研		6 (3)	17,195	59,614	76,809	148	720	868	259 (42)	1,348 (181)	1,607 (223)	100 (69)	200 (157)	300 (225)	6,729	39,642	2,341	43,712	8,996	35	515	154	234	63,333	
総 計		141 (66)	1,755,378	1,712,929	3,468,357	27,282	35,006	62,288	34,052 (20,816)	33,591 (11,606)	67,643 (32,422)	11,534 (2,688)	9,010 (6,823)	20,544 (9,511)	279,131	639,624	15,421	934,176	458,370	2,335	36,179	8,910	13,782	3,298,027	

注)職員数は平成10年5月1日現在

人 事 異 動

平成11年11月30日現在

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
11.11.30		二 宮 毬 子	情報管理課図書情報掛事務補佐員	辞 職

会 議

◎学 内

11.12.10 平成11年度第2回分館長会議

・協議事項

- (1) 平成11年度図書館資料費予算の追加配分について
- (2) その他

・報告事項

- (1) 図書館の将来構想に関する検討状況について
- (2) 情報シナジー構想（仮称）について
- (3) 情報リテラシー教育ワーキング・グループから東北大学の在り方に関する検討委員会研究教育等改革小委員会への報告について
- (4) 平成11年度第3回国立大学図書館協議会理事会について
- (5) 平成11年度科学研究費補助金による狩野文庫画像データベースの作成状況等について
- (6) 奨学寄付金の受け入れについて
- (7) Springer 社電子ジャーナル大量ダウンロード事例について
- (8) 各分館からの報告
- (9) その他

11.12.16 平成11年度第2回附属図書館商議会

・協議事項

- (1) 電子情報データベースサービスに関する検討委員会の検討結果について
- (2) 本館2号館利用の拡大について
- (3) その他

・報告事項

- (1) 平成11年度図書館資料費予算の追加配分について
- (2) 図書館の将来構想に関する検討状況について
- (3) 情報シナジー構想（仮称）について

- (4) 情報リテラシー教育ワーキング・グループから東北大学の在り方に関する検討委員会研究教育等改革小委員会への報告について
- (5) 平成11年度第3回国立大学図書館協議会理事会について
- (6) 平成11年度科学研究費補助金による狩野文庫画像データベースの作成状況等について
- (7) 奨学寄付金の受け入れについて
- (8) Springer 社電子ジャーナル大量ダウンロード事例について
- (9) 各分館からの報告
- (10) その他

◎学 外

11. 9.16～17 第54回東北地区大学図書館協議会総会（於：盛岡大学）
- 11.10.13～14 第73次国立七大学附属図書館協議会及び第32回国立七大学附属図書館部課長会議（於：大阪大学）
- 11.11.11 第31回国連寄託図書館会議（於：広島）
- 11.11.22 文部省による東北地区国立大学附属図書館に関するヒアリング（於：東北大学）
- 11.11.24 国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会（於：東京大学）
- 11.11.25 国立大学図書館協議会著作権特別委員会
国立大学図書館協議会常務理事会
- 11.11.26 国立大学図書館協議会受賞者選考委員会
国立大学図書館協議会理事会（於：名古屋大学）
- 11.12. 8～ 9 第12回国立大学図書館協議会シンポジウム（於：横浜国立大学）

編 集 後 記

1900年代も終わり2000年がやって来る。1900年代最後の年だからでもないだろうが、今年は地震災害が気になった。トルコでは二度の災害に見舞われたし、台湾では地震により大きな地表の盛り上がりが見れ、地震の凄さを見せつけた。地震国日本にとって他人事ではない。

本館も築27年で古く耐震構造になっていない部分が多い。早く直してほしいが、予算の都合

でどうにもならない。しかし、建物（ハード）がダメでも何かできることがあるのではなかろうか。つまり地震の状況により何をどうすればいいのかを常日頃から考えておくこと（ソフト）が必要であり、ソフトを充実させることによっても防災につながっていくものと思う。大地震が起きないことを祈りつつ……

東北大学附属図書館館報「木這子」 第24巻第3号（通巻88号）発行日 平成11年12月31日

発行人 濟賀 宜昭 広報委員長 東 高明

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910